

# 園長だより

第三号 九月  
竹鼻保育園  
園長 川出昭順

猛烈な暑さも和らいできました。みなさまご機嫌いかがでしょうか。あまり暑いのも堪りませんが、子ども達がプールで水鉄砲ではしゃいでいる姿が終わりになってしまふのは寂しい限りです。

今回から一枚の写真を掲載します。「クラスだより」が皆様のもとに届いているかと思いますが、毎月十四種類の「クラスだより」が発行されています。その中に、多くの写真が載せてありますので、園長が全くの独断と偏見で一枚を選び、少し大きめにして月間賞の発表とします。今回はこの作品です。「ぞう（二歳児）一組」のプールでの写真です。写真を見ているだけで、子ども達の楽しそうな様



子が伝わってきます。

## お母ちゃんってすごい

私には孫が四人います。外孫なんです。その一人に朔という名の男の子がいます。生後四ヶ月ぐらいの時のことでした。母親である娘が来て、子守してくれないかと頼むので、四人の子を育てた自負心から、まかしとけ、と子守をしました。妻も娘と一緒に買い物に出かけてしまいました。

出かけて間もなく、泣きはじめたのです。おむつを見ても問題なく、哺乳瓶にお乳を作って飲ませても、飲もうとせず、だんだん激しく泣き出し、やむなく抱っこして散歩に出かけました。外気浴をさせると泣きやむことを知っていましたので、あやしながら散歩しましたが、全く泣きやまず、更に激しく泣くのです。ついに私は娘に電話してすぐ帰るように言いました。すると、娘はこの携帯電話を孫の耳元に置くように言うので、そうすると、「さくちゃん、さくちゃん、どうしたの。ママよ・・」と話しかけると、あれだけ泣き叫んでいた孫が泣きやみ、そのうちに寝入ってしまったのではないですか。これは何だ、何が起こったのか。しばらく分かりませんでした。こういふことでないかと思うのです。

母親の声はこの世に生まれる前のお腹にいるときから聞いていた。この声を一番早く聞き、この声のするところが一番安心できる、ということではないか。だから、

ジージが一所懸命子守しても安心できないから泣き叫んだということなのでしょう。

保育園では生後二ヶ月の赤ちゃんからお預かりします。ひよつとしたら保育士の方がお母さんより長い時間子守をしているかも知れません。しかし、保育士は決してお母さんになることが出来ないことが分かります。

## 九月別院掲示板

怒りの心は積み重なり、

ついには破局に追い込む

別院へ入っていた時、左に掲示板があります。仏教の教えを毎月書いています。出来るだけ分かり易い言葉を使い表現しているつもりです。

怒りの心は誰でも持っている心です。小さな怒りから大きな怒りまでいろいろあります。大きい怒りは、信頼していたにもかかわらず裏切られる、許し難い、などは決して忘れることが出来ない傷が心に刻まれます。夫婦喧嘩も傷となって残るのか、または忘れてしまうのか、夫婦喧嘩は犬も食わぬとまでいわれますから、他人から夫婦のことは分らないということでしょうか。

しかし、長い人生には愛を交わした夫婦とは思えない出来事が起こります。浮気をするというのもそれなんでしょう。そこには、信頼が脆くも崩れていくわけですね。

怒りの心が冷静さを失い、破局の道を通り走るかも知れません。

夫婦という個人的な問題に留まらず、人間という人類にこの問題は深く影を落としてきたのです。日本人にはピンとこないかもしれませんが、民族・宗教によって今日まで殺し合いをしてきた歴史があります。民族対立によって怒りの心が蓄積し、自分一代で済まない泥沼の対立が、あるとき爆発する。いままで民族が異なっても仲良く過ごしていたのが、一瞬にして隣同士殺し合いがはじまるという惨事が起こってくる訳です。

怒りの心というものがいかに恐ろしい人間を造っているのか。人間を語る上では決して忘れることが出来ない心なのです。

この心からどうしたら開放されるのでしょうか。この心を引きずっている限り、人を信頼することも出来ません。夫婦の絆を取り戻すことも出来ません。

怒りの心を私の中から無くすことが出来たら、話は簡単なのですが、決してなくなりません。しかし、その怒りの心を私は持つており、その怒りに振り回されているということを知ったならば、どうでしょう。人から裏切られるということが起こると、私は自制心を失い、何をしでかすか分かりません。ところが、そのことをすでに教えられ、何をしでかすか分からない私であると自覚があったときに、次に起こる行動は、怒り狂った行動ではないと思います。もし、そうであったとしてもその行動をとりながらも、自分自身を悲しむところがどこかから生まれてくるのではないのでしょうか。この心こそ仏さまからいただいた心です。仏さまの心を頂いたとき、光が見えるのではないのでしょうか。